

# 遺伝資源収集・保存のためのラオス探索

表 2022年ラオス探索における収集物一覧

Province (県)	District (地区)	村数	ナス属			トウガラシ	キュウリ	カボチャ	トマト	ニガウリ	スイカ	合計
			<i>Solanum melongena</i>	<i>S. violaceum</i>	<i>S. torvum</i>							
Savannakhet	Champhon	2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
Bolikhomxai	Pakkading	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Khammouane	Thakek	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
Salavan	Cangsedon	3	1	1	1	0	1	0	1	0	1	6
	lakhonepeng	4	3	0	1	2	0	0	1	0	0	7
	laogane	11	16	2	1	5	3	2	1	0	0	30
	Salaven	2	3	2	0	1	0	0	0	0	0	6
	Samui	8	3	0	3	3	3	1	1	0	1	15
	Taoi	13	22	3	0	10	3	3	2	0	3	46
	TumLan	3	9	1	4	2	6	0	0	0	0	22
Vapi	4	8	0	0	3	2	0	0	1	0	14	
合計		52	67	9	10	31	18	6	6	1	5	153



写真1 がく、茎にとげがあるナス



写真2 青枯病の疑いがあるナス

「みどりの食料システム戦略」の2050年目標である、化学農薬使用量の50%低減には総合的な病害虫管理体系の確立・普及が必要であり、抵抗性品種の導入は体系確立のために必要な技術のひとつとして位置づけられています。

本県で多く栽培されているナス科、ウリ科などの野菜における病害抵抗性品種の育成には、多様な有用特性を持つ可能性のある海外の遺伝資源を導入する必要があります。

今回は、2022年に行ったラオスでの遺伝資源の探索についてご紹介します。

主な探索地域はラオス南部のサーラワン県で、11の地区、52の村からナスを中心に

合計153点の果菜類を収集し、日本では見ることができない多様性豊かな遺伝資源を得ることができました(表、写真1)。ナスの重要病害である青枯病に罹病していると思われる株と健全株が混在するほ場もあり、抵抗性の可能性を感じる個体もありました(写真2)。

今後は関係機関と連携して、収集された海外遺伝資源の特性解明を行います。

本探索は、令和4年度農林水産研究事業委託プロジェクト研究「植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進」(PGRAsia)の研究課題で実施されました。

(園芸育種担当 尾崎 耕 088-863-4916)